36 テーマ別 説話

出題傾向
- 「説話」は人々の間に伝わる民話や伝説などで、仏教説話と世俗説話がある。
- 説話の最後には作者の感想が添えられていることが多いので、説話のエピソード部分と区別するようにしよう。

標準問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。 〈岐阜〉

秦の恵王、蜀の国を討たむとし給へるに、道絶えて、人通ふ境にあらず。はかりことをめぐらし、石の牛を作りて、牛の尻に金を置きて、ひそかに境の辺りに送り遣はす。そののち、蜀の国の人、この牛を見て、「石牛、天より下りて、金を下せり。」と思へり。すなはち五人の力人をして、山を掘り、牛を引くに険しき山、平らげる道になりぬ。秦の相張儀を遣はして、石牛の跡を見て、蜀の国を討ちとりてけり。

〈「十訓抄」より〉

(1) 線「思へり」を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

(2) 線「はかりことをめぐらし」とは、「策略を練って」という意味ですが、次の文は恵王の策略についてまとめた一例です。［A］～［C］に当てはまる言葉を、A・Cは五字以内、Bは五字以上十字以内の現代語で書きなさい。

■恵王は、蜀の国を［A］としたときに、人が通れるように、［B］を作らなくてはならないので、国境近くに石で作った牛を置いて、天から下った石牛が［C］のだと思わせようとした。

A
B
C

(3) この古文から得られる教訓の内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友人を大切にしなければならない。
イ 思い上がった態度を取ってはならない。
ウ 物事をよく考えなければならない。
エ 人には親切にしなくてはならない。

2　次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。　〈秋田〉

宮中から夜遅く帰宅することになった役人は、その帰路に盗人が襲ってくると予想し、牛車の中で着ている衣を全て脱いで、冠と足袋だけを身につけて座っていた。ある大路にさしかかったとき、突然数人の盗人に襲われ、牛飼童をはじめとするお供は皆逃げてしまった。

盗人寄り来て、車の簾を引き開けて見るに、裸にて*史居たれば、盗人、①あさましと思ひて、「こはいかに」と問へば、史、「*東の大宮にてかくのごとくなりつる。*君達寄り来て、おのれが装束をばみな召しつ」と笏を取りて、よき人に物申すやうにかしこまりて答へければ、盗人笑ひて棄てて去にけり。その後、史、声を上げて牛飼童をも呼びければ、みな出で来にけり。それよりなむ家に帰りにける。

さて、妻にこの由を語りければ、妻の言はく、「その③盗人にもまさりたりける心にておはしける」と言ひてぞ笑ひける。まことにいと恐ろしき心なり。

（注）　史＝役人。　東の大宮＝東大宮大路。
君達＝貴公子たち。　笏＝宮中で正装したとき右手に持つ薄い板。
由＝いきさつ。

〈「今昔物語集」より〉

(1)　〰線ⓐ「やうに」、ⓘ「おはしける」を現代仮名遣いに直しなさい。

ⓐ［　　］

ⓘ［　　］

(2)　―線①「あさまし」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　すばらしい　　イ　あきれた
ウ　貧弱だ　　エ　悲しい

［　　］

(3)　‖線ⓐ「見るに」、ⓑ「答へければ」の主語として適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　妻　　イ　史　　ウ　よき人
エ　牛飼童　　オ　盗人

ⓐ［　　］

ⓑ［　　］

(4)　―線②「かくのごとくなりつる」とありますが、どういうことですか。十五字以内でわかりやすく書きなさい。

(5)　―線③「盗人にもまさりたりける心」とありますが、妻が「まさりたりける」と思った理由をまとめた次の文の［　　］A・Bに当てはまる言葉を、それぞれ二字で書きなさい。

・盗人を目の前にしながらも、［A］でいられる大胆さと、［B］を利かせて危険を回避した賢さに感心したから。

A［　　］

B［　　］

アドバイス

説話集には、作者が人々に紹介したいと思う説話が集められている。そのため、作者がその説話のどのようなところに心を動かされているのかを捉えることが重要になる。感動した点や説話に込められた教訓などを読み取ろう。